

## オスティアの「性的」グラフィッティー-Domus di Giove e Ganimede (I,IV,2)を中心にー

奥山広規(九州大学学術協力研究員)

koucha-wolf@hotmail.co.jp

### はじめに

#### ○グラフィッティとは

- ・「引掻かれたもの」の意 (*Brill'New Pauly*, s. v. *Graffiti*)
  - ⇔ ディピンティ(*dipinti*: 木炭、インクなどで「書かれたもの」と対になるもの)
- ・即興的に、自発的になされたもの、誰でも作成できるもの
  - 場所、支持体は問わない、道具も簡易なもの(鉄筆、鍵、釘、フィブラ、その辺の石などの尖ったもの)
- ・内容=とりとめのない出来事や思い、伝言、メモなどの豊富なテキスト、様々な画像
  - +意味を(我々が)理解できないものも多数
  - =日常性のため?
    - 当時の日常、その担い手(とくに庶民層)の実態に迫れる可能性あり
    - ヴェスビオ関連遺跡事例(ポンペイなど)が有名、本報告ではオスティア事例が対象

#### ○オスティア(現在のオスティア・アンティカ遺跡)

- ・紀元前 4 世紀創建のローマの植民都市
- ・帝都ローマの外港として機能
  - 文物・人材の結節点、古代世界の縮図ともいえる極めて重要な舞台
- ・良好な当時の町並みが残存 (幾度ものティベレ川の氾濫による埋没)
  - とくに漆喰壁面の残存、多くのグラフィッティもその恩恵
- ・日本隊の調査、研究対象 (都市オスティアの構造と人々の活動の解明: 2008 年~)
  - 2017~2019 年度 科学研究費補助金基盤研究(B) (代表: 上智大学 豊田浩志名誉教授)
  - 「先端光学機器によるオスティア・アンティカ遺跡・遺物の文字情報調査」
  - =報告者によるグラフィッティ悉皆調査 (奥山(2019<sup>1</sup>、2019<sup>2</sup>、2020))
  - ⇒ 現地調査に基づく研究へ
  - 本報告=生々しい肉声として注目を集めてきた「性的」なもの(*Erotica*)に注目
  - 先行支配的なポンペイ事例を、時空間的に異なるオスティアの事例の検討で、相対化

## 1 オスティア・グラフィッティ

### ○総数

- ・62 遺構 844 点 (表 1)

=文字グラフィッティ 516 点、画像グラフィッティ 263 点、その他(分類不能)65 点

※ポンペイ(1 万点以上)に比べると少数

→ ポンペイ=79 年で止まった都市、オスティア=6 世紀まで生き続けた都市

⇔ その他の都市に比べると多い

=ヘルクラネウム 344 点(文字グラフィッティ 285 点、画像グラフィッティ 59 点)

※The Ancient Graffiti Project 登録数 (<http://ancientgraffiti.org/Graffiti/searchHerculaneum>)  
発掘規模とも関係？

=ヘルクラネウム約 20ha の範囲の内 4. 5ha、ポンペイ約 60ha の内 44ha、  
オスティア約 80ha の内 35ha

### ○使用言語・文字

- ・ラテンとギリシア(47 点 : 表 1・3)

### ○年代

- ・主に 1 世紀~3 世紀 (根拠不明、オスティアの最盛期のため？、支持体の建築・装飾様式から？)

### ○種類(内容) (表 3)

- ・最大のカテゴリーは「数字(Numbers)」(21 遺構から 168 点(約 20%))

- ・性的グラフィッティ(Erotica)は 19 点(5 遺構から : 本報告の検討対象) (表 2)

## 2 オスティアの「性的」グラフィッティ概観

### ○「性的」グラフィッティ

- ・性的な要素を含むカテゴリー

=異性、同性を問わず、恋愛や性愛、性愛を種にした侮辱など (ヴァローネ(1999) ; 本村(2004))

画像では、性行為、性器(ファルスとヴァギナ)のモチーフ

### ○総数

- ・5 遺構 19 点 (文字グラフィッティ 16 点、画像グラフィッティ 3 点 : 表 2)

→ Domus di Giove e Ganimede (I, IV, 2 : ユピテルとガニメデの邸宅)=7 点(文字 5 点、画像 2 点)

Terme di Foro (I, XII, 6 : フォルム浴場)=1 点(画像 1 点)

Caserma dei Vigili (II,V, 1 : 消防隊の宿舎)=1 点(文字 1 点)

Terme Marittime (III,VIII, 2 : 海岸浴場)=2 点(文字 2 点)

Caseggiato degli Aurighi (III, X, 1 : 戦車御者の集合住宅)=8 点(文字 8 点)

○事例(遺構ごと、通し番号順)

・ Domus di Giove e Ganimede (I, IV, 2 : ユピテルとガニメデの邸宅)

①G0030、Room 31 南壁 (図 1)

: Hermadion cinaedus

「ヘルマディオンの、おまえは春を売る尻だ」

※G・・・はオスティア総合データベース(Ostia - Harbour City of Ancient Rome(<http://www.ostia-antica.org/>))  
のグラフィティ通し番号

②G0033[1]、Room 31 東壁、次の[2]と重複 (図 2)

: Hic ad Callinieum futui | orem anum amicom mare ... | nolite in aede...

「ここカリニクスの場所で、お口とお尻でやった・・・」

③G0033[2]、Room 31 東壁、上の[1]と重複 (図 2)

: Livius me cunus | lincet Tertulle cunus... | Efesius Terisium amat

「リウィウスがわたしのあそこをなめる・・・、テルトゥッレがあそこを・・・、エフェシウスはテリシウスを愛している」

④G0034、Room 31 東壁(報告者未確認) (図 3)

: Agathopus et Primi(s) et Epaphroditus tres convenientes

「アガトプスとプリムスとエラフロディトゥスが3人でまぐわった」

⑤G0035、Room 31 南壁(報告者未確認) (図 4)

: Nicephorus et Musice duo convenientes

「ニケフォルスとムシケが2人でまぐわった」

⑥R33①(奥山(2019)<sup>2</sup>)、Room 33 東壁 (図 5)

: 性器(ファルスとヴァギナ?)のモチーフ

⑦R33⑥(奥山(2019)<sup>2</sup>)、Room 33 北壁 (図 6)

: 性器(ファルス)のモチーフ

・ Terme di Foro (I,XII,6 : フォルム浴場)

①G0078、Room 18 床

: 性器(ファルスとヴァギナ)のモチーフ?

・ Caserma dei Vigili (II,V,1 : 消防隊の宿舎)

①G0122、Corridor 41 西壁

: Perfixi

「突っ込んだ」

・ Terme Marittime (III,VIII,2 : 海岸浴場)

①G0445、Room 5 南東壁

: Cinedus pedicatur

CESAR ECROTA PV

「女々しいやつ、犯され男・・・」

②G0853、Room 5 南東壁

: Σεκυωνδα + οιφ[---]

KAT

「セクンダはセックスした(?)」

・ Caseggiato degli Aurighi (III,X,1 : 戦車御者の集合住宅)

①G0313、中庭(Room 11)北側廊下南壁、下にファルス画像?

: Colonio | lingit, set quit | lingit, nescio, cunnu[m sc. lingit?]

「コロニオはなめる、彼は何をなめるのか、知らない[、あそこだよ?]

②G0280、Room 17 西壁

: [---]Ianuaria nugas es | vidus scripsit | [---]IMISS[---]VIISTI NII IIOVS | C R O VIIST | AMATOR | |  
[---]AII NIIVA[---]IIS | [---]AC | [---]N

「イアヌアリアは軽薄だ、捨てられ男が書いた・・・」

③G0293、Room 17(報告者未確認)

: Cruseros amas adama | Apella Cruside . Iustus Ianuar...us | plurima

「クリュシスよ、君はクリュセロスを愛しているが、しかし彼はアペッラに夢中。ユストゥス・イアヌアリウスからごきげんよう、ごきげんよう」

④G0299、Room 17(報告者未確認)

: Pupa v(ale) sal(utem)

「かわいこちゃん、こんにちは、ごきげんよう」

⑤G0302、Room 17(報告者未確認)

: Mulus amet patiam

「ラバがメス豚を愛すべし」

⑥G0253、Room 28 北壁

: Hic Amor | (h)abitat

「ここに Amor(愛)は住んでいる」

⑦G0854、Room 28 北壁(報告者未確認)

: Quinque irru[matores?]

「5人の喉淫者(?)」

⑧G0855、不明(収蔵庫保管、報告者未確認)、同じ壁に5回の繰り返し

: recte futui

「正しくセックスした」、5点中1点のみ recte futui X V[---]「・・・、5デナリウス」

- 点数が多く、文字も図像も直接的な(はっきりと性的な)「ユピテルとガニメデの邸宅」に着目  
= 文献史料、碑文を欠くが、建築学的に着目された遺構、そのため、コンテキスト把握が可能  
+ グラフィッティからの「ユピテルとガニメデの邸宅」自体の検討  
※コンテキストの不明瞭な「戦車御者の集合住宅」は別の機会に検討

### 3 Domus di Giove e Ganimede

○Domus di Giove e Ganimede 「ユピテルとガニメデの邸宅」(I, IV, 2) (図7)

・ Regio I のインストラ IV の一角 (図8)

※その他に Casa di Bacco Fanciullo(I, IV, 3)、Casa dei Dipinti(I, IV, 4)など

・ 130年代建造の大規模な複合住宅 (数字は図8、10の番号に対応)

→ 庭を除いて約 750 m<sup>2</sup>(約 227 坪 : 1階部分)

= 玄関ホール(28)、廊下(29)、廊下の拡張部(30 : the extension、ala)

廊下からつながるいくつかの部屋(27(the main reception room、the audience hall/dining room など)

※オスティア最大の部屋(6.75×8.75×6m(吹き抜け))

33(the small salon、the minor reception room など)

24(the masters suite)、25(the ante-chamber of 24、tablinum)

34/35(the service area : トイレ、キッチン、バスルーム?)

中庭(26、庭(21)と接続)、付属店舗(36、37(裏口)を通じて住宅と接続)

41(the service room)の内部階段から2階へ、2階も所有(外部階段(23)から入る 124、128、134-6 以外)

※建物自体は最大5階建て、3階以上には外部階段(38)から進入

・ 所有者(建造段階)

→ オスティアの財政的・社会的に重要な人物

= 邸宅の規模の大きさと構造

立地の良さ(都市中心部(フォルム、カピトリウム神殿など)の付近) (図9)

壮大な玄関ホール(多くの来訪者を示唆)、高品質の装飾(モザイクなど)

・ 約 150 年間機能、期間内に各種変更あり(構造、装飾、配置、用途)

①コンモドゥス帝暗殺(192年)以前 (図10)

= 27の天井の引き上げ(吹き抜け)と装飾(ユピテルとガニメデなど : 図11)、中庭と庭の半封鎖(ドアの設置)、裏口(37)の封鎖と付属店舗(36)の独立、40/41の独立と32の内部階段設置

※独立=内部階段の下などに、トイレの痕跡があるので、個別の居住空間兼商業施設

・・・廊下端に部屋(31)の追加、33の装飾変更(黄色い部屋へ)

②3 世紀後半？(275/276 年の地震が契機？)

＝モザイクの修復、中庭(26)と庭(21)の分離(壁の封鎖)、噴水の設置

・・・白色の薄い漆喰(新たな装飾の下地)の塗布

③4 世紀半ば以前(②以降のある時)

＝インストラの放棄、瓦礫の堆積(2~5m)と新たなフロアレベルの構築(下層民の居住)

・多くのグラフィッティの残存(51 点)

→ 文字 32 点＝数字 15 点、日付 3 点、名前 1 点、人物関係 1 点、奴隷関係 1 点、不明 6 点

・・・性的 5 点

図像 19 点＝人物 5 点、船 5 点、動物 3 点、幾何学・植物モチーフ 2 点、競技関係 1 点、複合 1 点

・・・性的 2 点

⇒ Room 31(23 点)、Room 33(18 点)に集中 (その他、Room 27(5 点)、Corridor 29(5 点))

性的グラフィッティも、文字が Room 31、図像が Room 33 に限定

○Room 31 (図 12、13)

・地が白い壁の部屋

・廊下端の追加部分

→ コンモドゥス帝暗殺(192 年)以前の改装時

・非常に簡素な装飾

→ 白地に赤色の二重水平線、様式化されたエディクラのみ

・部屋の重要性

→ 低い

＝非常にシンプルな装飾、貧弱で粗い仕切り壁、ドアではなくカーテンの利用(機密性の低さ)

・3 世紀後半までに改装(白色の薄い漆喰の塗布)？

＝グラフィッティも、①コンモドゥス帝暗殺(192 年)以前と②3 世紀後半の間のもの

・グラフィッティ 23 点

→ 図像 14 点＝人物 5 点、船 4 点、動物 3 点、競技関係(剣闘士とその名前?)1 点、植物モチーフ 1 点

文字 9 点＝人物関係 1 点、不明 3 点

・・・性的 5 点

＝明瞭な男性同性愛的な特徴 (③G0033[2]以外)

⇒ 性的以外は、一般的な題材ばかりで、他の遺構と比べて注目すべきものなし

## ○Room 33 (図 14)

- ・ 地が黄色い壁の部屋
  - コンモドゥス帝暗殺(192年)以前時の改装
- ・ 様式化された建築モチーフ、小さな風景画、植物モチーフ、悲劇マスク
  - Room 31 と比べて装飾的
- ・ 部屋の重要性
  - 主要レセプションルームの1つ (25、27、33)
    - ⇔ 改装時(コンモドゥス帝暗殺(192年)以前)に低下?
      - = 中庭(26)からの光の遮断、風景からの切断 (図 15)
- ・ グラフィッティ 18点
  - 文字 14点=数字 9点、日付 1点、名前 1点、奴隷関係 1点、不明 1点
    - 図像 4点=船 1点、複合 1点
      - ・・・性的 2点
        - = 単純なファルス(とヴァギナ?)のモチーフ (図 5、6)
          - 目立つものではなく、深い意味(厄払いなど)はなさそう
  - ⇒ 一般的な題材ばかりで、他の遺構と比べて注目すべきものなし
    - 性的図像も、単純で、「オステアでは珍しいもの」としかいえず
    - ※①コンモドゥス帝暗殺(192年)以前と②3世紀後半の間のも (Room 31と同様)

## 4 Domus di Giove e Ganimede と「性的」グラフィッティ

○Domus di Giove e Ganimede の用途 (①コンモドゥス帝暗殺(192年)以前と②3世紀後半の間)

①性的サービスを受けられる高級ホテル?

- ・ Room 31 の文字グラフィッティに基づき、とくに男性同性愛者向け (Calza(1920))
- ・ Room 27 の絵画分析による追認 (Clarke(1991))
  - 今も一般的な見解か? (Ostia - Harbour City of Ancient Rome : <https://www.ostia-antica.org/regio1/4/4-2.htm>)
    - + 管理人(カリニクス)も示唆
      - : 「ここカリニクスの場所で(hic ad Callinicum)」(上記②G0033[1])
  - ⇔ 建築学的分析から、否定 (DeLaine(1995))
    - + 性的グラフィッティを強調しすぎていることにも言及
    - 男性同性愛グラフィッティの判読修正による疑念
      - = 女性の存在(G0034 : Primu(s)→Prima、G0035 : Musice=Musica、Musicē?) (Van Buren(1923))
      - G0033[1]・[2]の精査と修正(os=下の口の意、Tertulle=Tertulla?) (次の頁参照、Solin(2020))
  - ⇒ 性行為はあったが、男性同性愛に限定する必要なし (Berg(2020))

## ※Solin(2020)による判読

- ・ G0033[1]、Room 31 東壁、[2]と重複  
: Hic ad Callnicum | futui orem, anum | amice mi, amari[=e] noli ter | inde n[on] v[=b]ene [---] | donor[  
--]  
「ここカリニコスの場所で、下の口とお尻でやった、わが友人よ、やりすぎるといいことないぞ・・・」
- ・ G0033[2]、Room 31 東壁、[1]と重複  
: Livius Mercurius (palm) | lincet Tertulla cunnu quam  
「リウィウス・メルクリウスがテルトゥッラのあそこをなめる・・・」
- ・ 「ここ Callnicus の場所で(hic ad Callnicum)」の解釈変更 (報告者)  
→ 管理人の示唆⇒カリニクス(Callnicus)の寝床  
Room 31=男奴隷部屋(夜間)  
※当該時期の Domus di Giove e Ganimede=裕福な人物の家、複数人の家内奴隷の想定  
改装時の 37(裏口)の封鎖と付属店舗(36)の独立、40/41 の独立による奴隷用の部屋不足  
→ Room 31 の追加の理由、低い重要性和防犯(カーテン)  
※2 階は主人一家の寝床、女奴隷は別の部屋(キッチンなど?)だが・・・行き来可能  
日中は家内奴隷、訪問者の奴隷などの待機場所? (=Room 31 のグラフィッティの書き手?)  
訪問客の待機・対応場所は Room 33 か?

## ②Room 33 について

- ・ 「ほとんどすべて重要ではない・・・、重要度の低い部屋に集まっている・・・」(Calza(1920))  
→ 部屋もグラフィッティも注目されず  
=ほぼオステリアで一般的なもののみ、性的図像 2 点(報告者による新出)も特記することなし
- ・ Room 33=訪問客の待機・対応場所?  
→ 単なる気晴らしの可能性 (DeLaine(1995))  
訪問者を中心に、随伴奴隷、家内奴隷、主人家族の手?

## おわりに

### ○Domus di Giove e Ganimede

- ・ 裕福な人物の住居 (建造時～性的グラフィッティが刻まれた時代、同一家系かは不明)
- ・ 複数人の家内奴隷の同居  
→ カリニクスのほか・・・グラフィッティ登場人物(ヘルマディオオン、アガトプス、プリマなど)も?  
性的、その他のグラフィッティの書き手?
- ・ 性的グラフィッティの機能  
→ 単なる気晴らし、暇つぶし (性的以外のものも同様)  
⇔ 日常的に自由に刻めない場合

＝サートゥルナーリア祭と関連？（自由なふるまいの証、思い出作り）

※主人批判のグラフィットの存在

G0023(Room 33 東壁) : Η | ματρωνα | περιψημια σου 「奥様は卑しい僕」

### ○オステティアと性的グラフィッティ

・一般的な特徴(内容)

→ 他遺構事例の検討が必須

※「戦車御者の集合住宅」

＝性愛事例＋恋愛事例(恋のさや当てなど、Room 17(階段下の小部屋)に集中) (図 16)

・一般的な特徴(数量)

→ 性的グラフィッティの乏しさ

※ポンペイのルパナルでは文字グラフィッティのみでも約 45 点

＝遺跡の長期性による支持体(漆喰など)の消失、それによるグラフィッティ自体の乏しさも一因か

⇔ ドゥラ・ユーロポス(多くの支持体とグラフィッティの残存)での性的グラフィッティの欠落

＝支持体消失以外の理由の想定へ

商業的性的活動の情報の乏しさとも関連か？

※専用の建物としては不明（石造りベッド付きシングルルーム(*cellae meretriciae*)の欠如)

飲食店(酒場、レストラン : *Caupona di Alexander e Helix* (IV,VII,4))、

ホテル(*Casa delle Volte Dipinte* (III,V,1))、

浴場(*Terme della Trinacria* (III,XVI,7)) などでの活動？（性的慣習の変化の可能性もあり）

### 参考・引用文献

・Adams(1982) : Adams, J. N., *The Latin Sexual Vocabulary*, Baltimore : The Johns Hopkins University Press, 1982.

・Baird(2016) : Baird, J. A., “Private Graffiti? Scratching the Walls of Houses at Dura-Europos”, Benefiel, R., Keegan, P. (eds.), *Inscriptions in the Private Sphere in the Greco-Roman World*, Leiden, Brill, 2016, pp. 11-31.

・Barbet(2012) : Barbet, A., “Graffiti à la romaine : un essai d’archéologie expérimentale”, Fuchs, M., Sylvestre, R., Heidenreich, C. S. (eds.), *Inscriptions mineures : nouveautés et réflexions. Actes du premier colloque Ductus (19-20 juin 2008, Université de Lausanne)*, Berne, 2012, pp. 241-260.

・Benefiel(2016) : Benefiel, R., “The Culture of Writing Graffiti within Domestic Spaces at Pompeii”, Benefiel, R., Keegan, P. (eds.), *Inscriptions in the Private Sphere in the Greco-Roman World*, Leiden, Brill, 2016, pp. 80-110.

・Berg(2020) : Berg R., “Hic Amor Habitat. Sex and the Harbour City”, Karivieri(2020), pp. 313-318.

・Calza(1920) : Calza G., “Gli scavi recenti nell’abitato di Ostia”, *Monumenti Antichi* 26, 1920, coll. 322-430.

・Chaniotis(2011) : Chaniotis, A., “Graffiti in Aphrodisias : Images, Texts, Contexts”, Baird, J. A., Taylor, C. (eds.), *Ancient Graffiti in Context*, London, New York, 2011, pp. 191-207.

・Clarke(1991) : Clarke, J. R., “The decor of the House of Jupiter and Ganymede at Ostia Antica. Private

residence turned gay hotel ?”, *Roman art in the private sphere*, Ann Arbor, 1991, pp. 89-104.

- DeLaine(1995) : DeLaine, J., “The Insula of the Paintings at Ostia 1.4.2-4. Paradigm for a city in flux”, Cornell, T. J., Lomas, K. (ed.), *Urban Life in Roman Italy*, London, pp. 79-106.
- DeLaine(1999) : DeLaine J., “High Status Insula Apartments in Early Imperial Ostia - a Reading”, *Mededeelingen van het Nederlands Historisch Instituut te Rome* 58, 175-189.
- DeLaine(2004) : DeLaine, J., “Designing for a market : ‘medianum’ apartments at Ostia”, *Journal of Roman Archaeology* 17, pp. 146-176.
- DeLaine(2012) : DeLaine, J., “Housing in Roman Ostia”, Balch, D. L., Weissenrieder, A. (eds.), *Contested Spaces. Houses and Temples in Roman Antiquity and the New Testament*, Tuebingen, 2012, pp. 327-354.
- DeLaine(2020) : DeLaine, J., “Apartment Living in Second Century Ostia”, Karivieri(2020), pp. 95-101.
- Gering(2002) : Gering, A., “Die Case a Giardino als unerfüllter Architektentraum. Planung und gewandelte Nutzung einer Luxuswohnanlage im antiken Ostia”, *Mitteilungen des Deutschen Archäologischen Instituts, Römische Abteilung* 109, 2002, pp. 109-140.
- Falzone(2010) : Falzone, S., Zimmermann N., “Stratigrafia orizzontale delle pitture delle case a giardino. Modello della fase originaria dei blocchi centrali del complesso ostiense”, *Anzeiger: Österreichische Akademie der Wissenschaften* 145-1, 2010, pp. 107-160.
- Guidoboni(1994) : Guidoboni, E., Comastri, A., Traina, G. (eds.), *Catalogue of ancient earthquakes in the Mediterranean area up to the 10th century*, Rome, 1994.
- Heinzelmann(2002) : Heinzelmann, M., “Bauboom und urbanistische Defizite - zur staedtebaulichen Entwicklung Ostias im 2. Jh.”, *Ostia e Portus nelle loro relazioni con Roma* (C. Bruun - A.G. Zevi edd.), ActaInstRomFin 27, Roma, 2002, pp. 103-122.
- Hermansen(1982) : Hermansen, G., *Ostia. Aspects of Roman City Life*, Alberta, 1982.
- Franklin(1986) : Franklin, J. L., Jr., “Games and a Lupanar : Prosopography of a Neighborhood in Ancient Pompeii”, *The Classical Journal* 81-4, 1986, pp. 319-328.
- Karivieri(2020) : Karivieri, A. (ed.), *Life and death in a multicultural harbour city : Ostia Antica from the Republic through Late Antiquity* (Acta Instituti Romani Finlandiae 47), Rome, 2020.
- Langner(2001) : Langner, M., *Antike Graffitiziehungen : Motive, Gestaltung und Bedeutung*, Dr. Ludwig Reichert Verlag Wiesbaden, 2001.
- Levin-Richardson(2011) : Levin-Richardson, S., “Facilis hic futuit : Graffiti and Masculinity in Pompeii’s ‘Purpose-built’ Brothel”, *Helios* 38-1, 2011, pp. 59-78.
- Lohmann(2015) : Lohmann, P., “Some Thoughts on the Habits of Graffiti-Writing. Visual Aspects of Scratched Inscriptions within the Roman House”, *Archaeological Review from Cambridge* 30.1, pp. 70-76.
- Meiggs(1973) : Meiggs, R., *Roman Ostia*, Oxford, 1973(2<sup>nd</sup>).
- Pavolini(1986) : Pavolini, C., “L’edilizia commerciale e l’edilizia abitativa nel contesto di Ostia tardoantica”, Giardina, A.(ed), *Societa e impero tardoantico II : Roma. Politica, economia, paesaggio urbano*, Roma-Bari, 1986, pp. 239-283.
- Solin(2008) : Solin, H., “Introduzione allo studio dei graffiti parietali. II. Ostia”, Brandt, O.(ed.), *Unexpected voices. The graffiti in the cryptoporticus of the Horti Sallustiana*, Stockholm, pp. 116-124.
- Solin(2020) : Solin, H., “The Wall Inscriptions of Ostia”, Karivieri(2020), pp. 319-332.
- Van Buren(1923) : Van Buren, A. W., “Graffiti at Ostia”, *Classical Review* 37, pp. 163-164.

- ・ Varone(2005) : Varone, A., “Nella Pompei a luci rosse. Castrensis e l'organizzazione della prostituzione e dei suoi spazi”, *Rivista di studi pompeiani* 16, 2005, pp. 93-109.
- ・ Varone(2020) : Varone, A., *Iscrizioni parietali di Stabiae*, Roma, 2020.
- ・ Viitanen(2013) : Viitanen, E., Nissinen, L., Korhonen, K., “Street Activity, Dwellings and Wall Inscriptions in Ancient Pompeii : A Holistic Study of Neighbourhood Relations”, *Theoretical Roman Archaeology Journal* 0(2012), 2013, pp. 61-80.
- ・ Wallace-Hadrill(2011) : Wallace-Hadrill, A., “Scratching the surface : a case study of domestic graffiti at Pompeii”, Corbier, M., Guihembet, J.-P.,(eds.), *L'Écriture dans la Maison Romaine*, Paris, pp. 401-414.
- ・ ヴァローネ(1999) : アントニオ・ヴァローネ著、本村凌二監修、広瀬三矢子訳、『ポンペイ・エロチカ ローマ人の愛の落書き』、PARCO 出版、1999 年(原著 1994 年)。
- ・ 奥山(2018) : 奥山広規、「史料紹介 オスティア・グラフィッティ」、『西洋史学報』44、111-126 頁、2018 年。
- ・ 奥山(2019)<sup>1</sup> : 奥山広規、「2017 年度オスティア・アンティカ遺跡グラフィッティ調査報告」、『西洋史学報』45、79-102 頁、2019 年。
- ・ 奥山(2019)<sup>2</sup> : 奥山広規、「2018 年度オスティア・アンティカ遺跡グラフィッティ調査報告」、『西洋史学報』46、79-104 頁、2019 年。
- ・ 奥山(2020) : 奥山広規、「2019 年度オスティア・アンティカ遺跡グラフィッティ調査報告」、『西洋史学報』47、119-147 頁、2020 年。
- ・ 奥山(2021) : 奥山広規、「史料紹介 オスティア・グラフィッティ(改訂版)」、『西洋史学報』48、111-126 頁、2021 年。
- ・ 坂口ほか(2017) : 坂口明・豊田浩志編、『古代ローマの港町：オスティア・アンティカ研究の最前線』、勉誠出版、2017 年。
- ・ フォルベルク(1976) : F. K. フォルベルク著、大場正史訳、『西洋古典好色文學入門』、桃源社、1976 年(原著 1882 年)。
- ・ 堀ほか(2021) : 堀賀貴編、『古代ローマ人の危機管理』、九州大学出版会、2021 年。
- ・ 堀ほか(2021) : 堀賀貴編、『古代ローマ人の都市管理』、九州大学出版会、2021 年。
- ・ マールティアリス(1973) : マールティアリス、藤井昇訳、『エピグラマンタ(上)』、慶應義塾大学言語文化研究所、1973 年。
- ・ マールティアリス(1978) : マールティアリス、藤井昇訳、『エピグラマンタ(下)』、慶應義塾大学言語文化研究所、1978 年。
- ・ 本村(2004) : 本村凌二、『優雅でみだらなポンペイ』、講談社、2004 年。
- ・ 本村(2014) : 本村凌二、『愛欲のローマ史 変貌する社会の底流』、講談社学術文庫、2014 年。